

日本ITU協会 研究会開催一覧 (2024年1月～3月)

ITU-R研究会	テーマ	概要	講師
第407回 2024年2月16日	ITU 2023年 世界無線通信会議 (WRC-23) 結果報告	ITUの2023年世界無線通信会議 (WRC-23) が、2023年11月20日～12月15日にかけてアラブ首長国連邦のドバイで開催されました。WRCは3～4年ごとに開催され、各周波数帯の利用方法 (周波数の国際分配)、衛星周波数の国際調整手続等、無線通信に関する国際的な規則である無線通信規則 (RR) を改正するために行われるITUでも最大規模の会議です。 今般のWRC-23では、ITU加盟国163か国等から約3,900名、日本からは総務省及び民間事業者等約130名が参加し、携帯電話用基地局としての高高度プラットフォーム (HAPS) の利用や衛星と携帯電話端末間の直接通信等、非地上系ネットワーク (NTN) に関する議題において、我が国の提案を反映しつつ周波数確保等に成功するなど、我が国にとって重要な結果が得られました。 本講演ではこうしたWRC-23の結果を報告します。	総務省 総合通信基盤局 電波部 電波政策課 国際周波数政策室 林 祐二郎氏
第408回 2024年3月21日	ITU-RにおけるHAPS 周波数拡張に向けた 取組み —WRC-23 議題1.4 の経緯と結果—	昨年末に開催された2023年の世界無線通信会議 (WRC-23) の議題1.4として、携帯電話用基地局としての高高度プラットフォーム (HAPS) の周波数追加、及び既存周波数の規制見直しが決定されました。 本議題は、2019年の世界無線通信会議 (WRC-19) での議題立上げ、ITU-Rにおける技術・規制案の検討、WRC-23での無線通信規則の改正に向けた議論等、約6年間の活動において日本が主体的な役割を担ってきました。 本講演ではそれらの活動における課題や対処、最終的にWRC-23で得られた結果をその際の気付きとともにご説明します。	ソフトバンク株式会社 渉外本部 電波政策統括室 標準化推進部 福本 史郎氏

ITU-T研究会	テーマ	概要	講師
第565回 2024年1月17日	B5G/6G時代に向けた セキュリティ最新 トピックについて —SG17の取組み状況を ベースに—	5Gネットワークへの移行に伴い、ネットワーク機能の高度化が進むとともに、ネットワーク基盤の構築方法が大きく変化しようとしています。また、AI技術の進展や量子技術の発展により、サービスを構成する基盤技術も大きな変化が生じています。一方で、新サービスに対するセキュリティやプライバシーの不安も生じています。 本講演では、ITU-T SG17における動向を中心に、セキュリティの面から注目されている新技術とそのセキュリティ・プライバシー保護対策の検討状況について幅広くご紹介します。	株式会社KDDI総合研究所 情報システム・セキュリティ部 ITU-T SG17副議長 三宅 優氏
第566回 2024年2月15日	ケーブルテレビの将来 を見据えた標準化の 在り方について —ITU-T SG9の現在 と今後の考察—	COVID-19パンデミックが一段落し、2023年5月にはインドから、11月にはコロンビアからそれぞれ招聘を受け、ITU-T SG9も対面会合が復活しました。 同時に、2024年10月に予定されている世界電気通信標準化総会 (WTSA-24) まで残り1年を切り、SG9においても、WTSA-16より2会期 (8年) 続く所掌定義や研究内容の見直しの議論が開始されました。 そこで見てきたのが、「ケーブルテレビ」の役割の多様化です。これらを踏まえて、次会期の標準化作業を一層効率的に推進すべく、日本から2024年1月のTSAG会合に向けてSG再編の一案を提案しました。 本講演では、SG9の最新動向及びTSAGの議論の様子も含めて、SG再編提案の背景やあるべき将来像を考察します。	KDDI株式会社 技術統括本部 技術戦略本部 ITU-T SG9議長 宮地 悟史氏



情報通信研究会	テーマ	概要	講師
第127回 2024年1月22日	CES報告と米国ICT 業界2024年の展望	<p>生成AIで大きく湧いた2023年を受け、ハイテク業界ではAI活用が広がっている。CESでは、多くのデバイスを対象にエンベデッド系AIが注目を集めている。一方、AIサービスを支えるクラウド業界やテレコム業界は厳しい設備投資を続けているにも関わらず、新サービスによる収益の拡大に苦戦している。その背景には、ICT業界がクラウドネイティブ化を経て、アプリケーションへと進むサービス開発パイプラインの大きな転換が潜んでいる。</p> <p>今回は、CESの報告とともに、2023年通年の米通信業界を振り返りながら2024年を展望してみたい。</p>	アリアル・イノベーション ICTジャーナリスト 小池 良次氏
第128回 2024年1月25日	デジタル技術による スポーツ体験・ スポーツ産業の変革	<p>スポーツの歴史は、技術革新と大きく関わっていることはご存じでしょうか? 古代オリンピック種目にあるような陸上競技や格闘技に始まり、近代の球技、最近のeスポーツに至るまで、スポーツ競技は、技術と共に発明・進化を遂げてきました。いま、IoTやAI技術を含めたDX（デジタル・トランスフォーメーション）の波を受けて、スポーツの世界にも大きな変化が起きています。</p> <p>また、DXは、単に、「みる」「する」「支える」のスポーツ体験を変えるだけでなく、お金を生み出す仕組みや産業構造にもインパクトを与えます。</p> <p>本講演では、デジタル技術がもたらすスポーツ体験やスポーツ産業の変革について、国内外のスポーツテック（Sports-Tech）の事例を交えて、分かりやすくお伝えします。</p>	株式会社NTTデータ経営 研究所 ビジネス変革ユニット 河本 敏夫氏